今金町こくほ情報

～今金町国民健康保険の現状～

平成 27 年 11 月発行　今金町保健福祉課

国民健康保険は（以下「国保」）とは病気やケガ、出産・死亡等のときに、保険給付を行う医療制度の一つで、その財源は国保に加入している皆様から納めていただいているお金（国保税）と国や北海道などからの補助金などによってまかなわれております。国保の運営は、各地方公共団体などが運営しており、今金町の国民健康保険は『今金町』が独自に運営しております。

そのため、国保運営については、国保の加入者減少や大きな病気になり高額な医療費がかかる方が多くなれば、その分運営が厳しい状況になります。

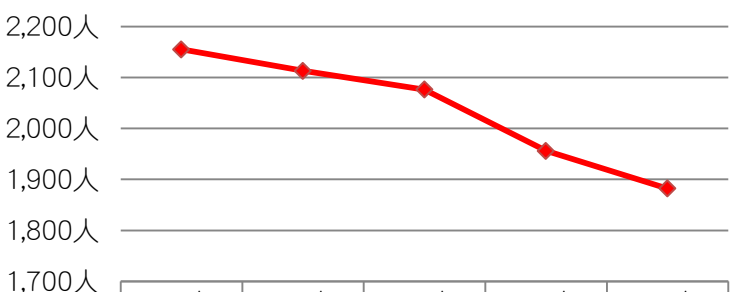
近年、今金町の国保財政におきましては、年々加入者の減少が続いていますが、医療費も年々増加している状況が続いています。このことにより、収入源の国保税が減少し、支払わなければならない医療費が増加しているため、毎年厳しい財政状況が続いております。

昨年度の国保財政の状況

今金町の総人口は平成 26 年度末時点で、5,613 人、そのうち国保加入者は 1,882 人なので、今金町民全体の約 33%の人が国保へ加入しています。しかし、平成 22 年度末の加入者（図①）で比べてみますと、273 人もの加入者が減少しており、加入者全体から見ると、5 年間で約 15%もの加入者が少なくなっている状況です。

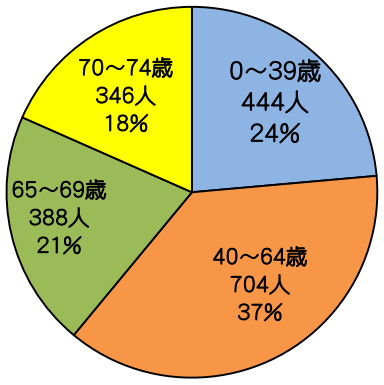
また、平成 26 年度末の国保加入者を年代別構成（図②）で比べてみますと 0～39 歳までの若年層が全体の 24%に比べ、病院等への受診率が多くなる 65 歳以上の高年齢層が 39%と若年層を上回っており、今金町の国保におきましても高齢化が進んでいることがわかります。

図①

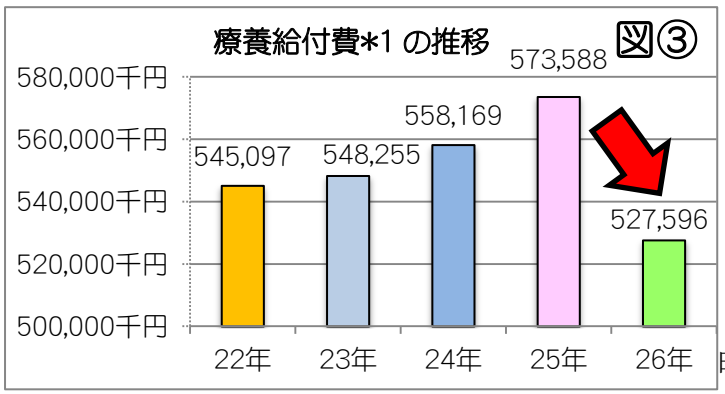


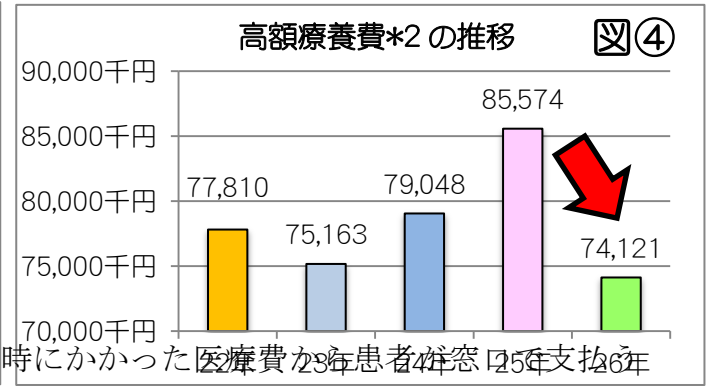
	H22年度末	H23年度末	H24年度末	H25年度末	H26年度末
加入者	2,155人	2,113人	2,076人	1,956人	1,882人

図②



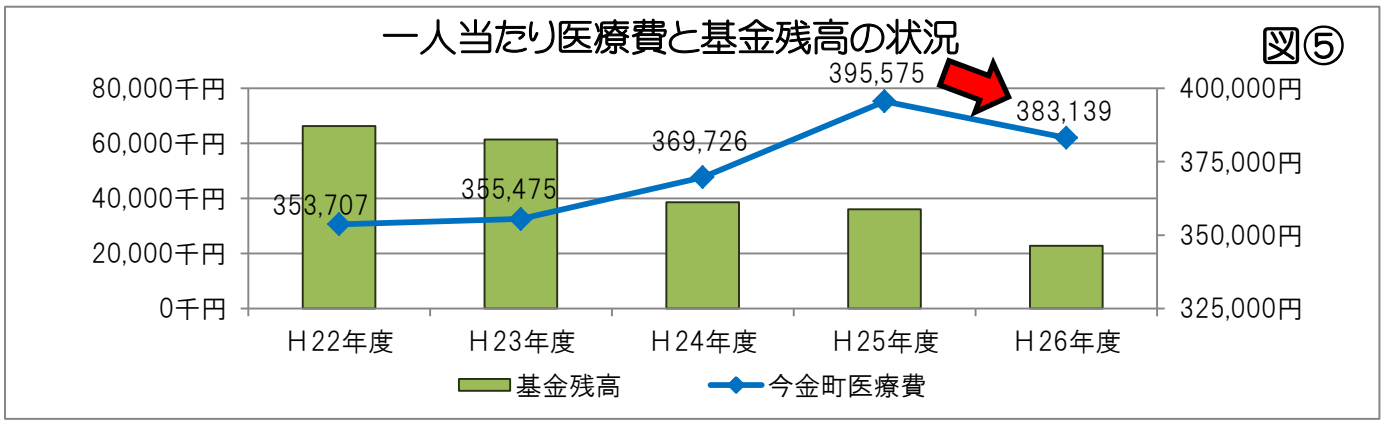
次に医療費の推移を見てみますと、年々増加傾向でありました療養給付費*1（図③）高額療養費*2（図④）一人当たりの医療費（図⑤）は、平成 25 年度には 2 年連続で医療費が過去最高額となりましたことを情報誌などでお伝えしましたが、平成 26 年度は皆様のご協力によりまして、すべてにおいて数年ぶりに減少する結果となりました。しかし、依然として高水準にあることには変わりがない状況ですので、皆様の引き続きのご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





時にかかった医療費から患者が窓口で支払う金額（１～３割）を差引いた後の金額

*2.高額療養費とは、１ヶ月に患者が支払う金額が、自己負担限度額を超えた部分の金額



今までのことから、平成 26 年度会計においても、引続き医療費が高水準であること等の理由により、支出が収入を上回る『赤字』となりましたので、平成 26 年度会計でも、収入の不足分を国保基金の残高を取り崩して補てんする結果となりました。

平成 27 年度におきましても、国保財政の大幅な改善は望めない状況ではありますが、昨年度に引き続き『課税限度額』を今年 4 月の国保税条例の一部改正により引き上げたことにより、国保加入者の負担が増していることから、これまでと同様に不足（赤字）分が生じた際には基金を取り崩すこととしたため、今年度も昨年度と同じ税率で据え置くこととしました。

しかし、国保税率を据え置いたとしても、国保財政が厳しい状況に変わりがないため、財政状況を改善するためには引続きの医療費抑制・適正化が不可欠であることから、裏面にて国で推進しております『ジェネリック医薬品』についてを説明いたします。

ジェネリック医薬品とは

ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは、新薬（先発医薬品、標準製剤）と効能・効果、用法・用量が原則的に同一で、新薬と同等の治療効果が得られる医薬品であります。

また、特許（物質・用途）が満了し、有効性と安全性が確かめられた後に発売される医薬品でありますので、新薬より安価で使用することが出来ます。

新薬の内容に厚生労働省が認可した添加物を加えてもよく、味が飲みやすくなったり、匂いが改善された使用しやすい薬になっています。

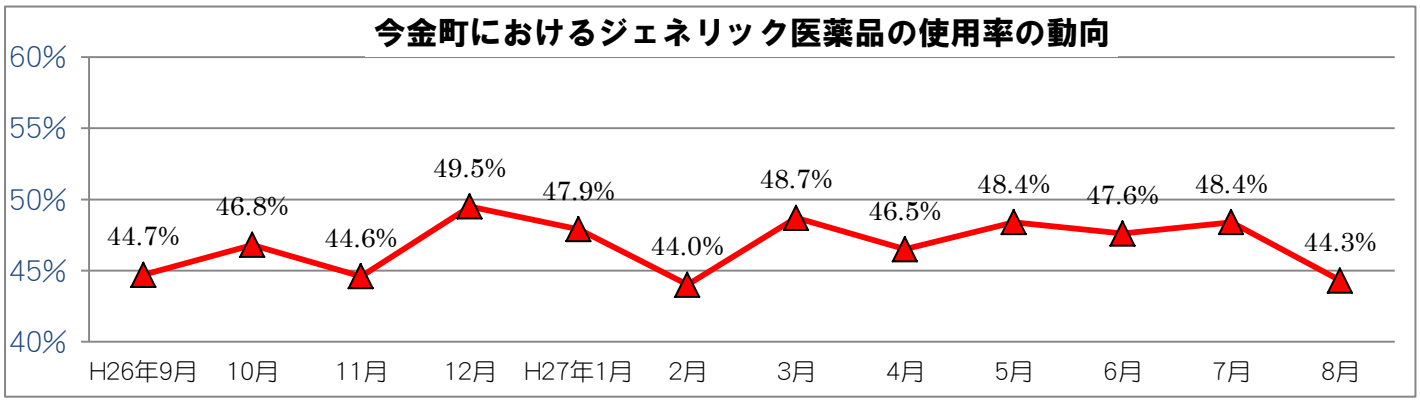
なぜ、ジェネリック医薬品を選ぶ方がいいの！？

ジェネリック医薬品は先発医薬品の特許が満了しているものと同等である医薬品であることから、開発費用や様々な試験を行う必要が無いため、価格を安く提供できる医薬品です。

新薬よりも価格を安く購入できる薬を使用することで、皆様の医療費負担を軽減できますし、全体的な医療費も抑えることができますので、将来的な部分を含め、安定的な国保の運営をすることにつながります。

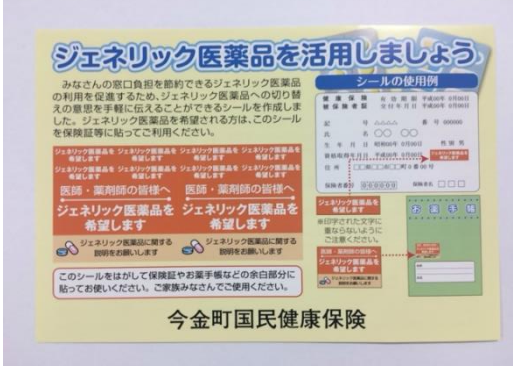
ジェネリック医薬品の使用率目標について

国では、ジェネリック医薬品の使用率目標を平成 30 年 3 月末までに 60%以上にすることを目標としており、今金町における現在の使用率は、年平均で 46.8%の使用率となっております。



ジェネリック医薬品を使用するためには

ジェネリック医薬品を使用する意思を薬局等の窓口で申し出る他、平成 27 年 9 月に交付しました国民健康保険証に同封しておりました意思表示シールを保険証やお薬手帳に貼っていただき、使用の意思を表示することが出来ます。



ジェネリック医薬品は安心です！

薬の値段が安いから効かないのではないか。また、安いのは何か欠陥があるのではないかという心配もお聞きしますが、前段にも記載したとおり、新薬と同等の効果があり、開発費用の必要が無いことから安価で提供できる医薬品であり、国の厳格な審査のうえ製造販売が許可された薬なので、ジェネリック医薬品を選択することで、同じ効き目で皆様のご負担を減らすことができ、将来にわたる国保制度の運営につなげるために、今後におきましてもジェネリック医薬品の使用について皆様の引続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

病気の早期発見が医療費の適正化につながります！

今金町の国保では、国保加入者を限定とした「短期人間ドック」と「精密脳ドック」の受診料金を一部助成しており、一人 5,000 円で検査を受診することが出来ます。検査をすることで、健康だとわかると安心して暮らせますし、もし、病気の早期発見につながれば、重症化を防ぐことができ、その分、皆様の医療費の負担を軽減することが出来ます。

つきましては、早期発見・早期治療のためにも受診することをお勧めいたします。

なお、予算の関係上、助成できる人数に限りがありますので、お早目の申込みをお願いいたします。

ドック名	短期人間ドック	精密脳ドック
対象者	満 30 歳以上の今金国保加入者	満 40 歳以上の今金国保加入者
受診料	一人　5,000円	
受診権利	なし	2年に1度
受診病院	今金町国保病院	①函館新都市病院 ②函館脳神経外科病院 ③函館中央病院 ④市立函館病院
申込み方法	としべつ「保健福祉課」まで申込みください。 TEL:82－2780	